

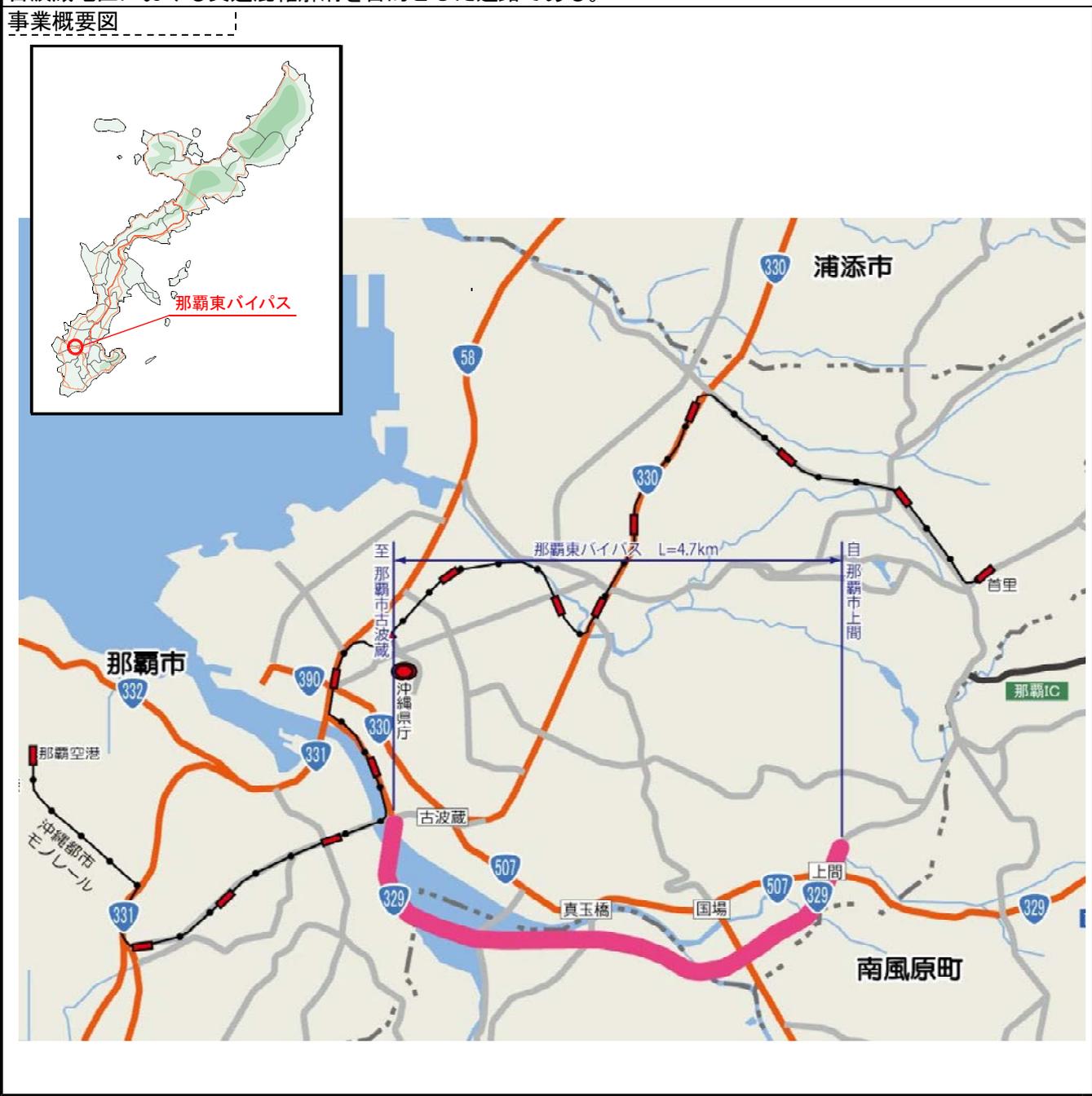
事後評価結果（平成21年度）

担当課：沖縄総合事務局 道路建設課
担当課長名：金城 博

事業名	一般国道329号 <small>なほびがし</small> 那覇東バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄県総合事務局	
起終点	自： <small>おきなわけんなはしうえま</small> 沖縄県那覇市上間 至： <small>おきなわけんなはしこはぐら</small> 沖縄県那覇市古波蔵	延長	4.7km			

事業概要
 一般国道329号は、名護市を起点とし、沖縄東海岸の主要都市を經由して那覇市に至る延長約85kmの主要幹線道路である。
 当該国道の那覇市内区間は、那覇市の都心部や市街地へと、また1987年の沖縄自動車道那覇インターチェンジ開通後は那覇空港から沖縄本島中部・北部地域へのアクセス道路として機能している。
 このため、一般国道329号の那覇市上間、国場、真玉橋、古波蔵地区では、那覇市中心部、那覇インターチェンジへの交通が集中し、交通混雑を引き起こしている。

事業の目的・必要性
 一般国道329号那覇東バイパスは、一般国道329号（現国道507号、330号）の那覇市上間、国場、真玉橋、古波蔵地区における交通混雑解消を目的とした道路である。



事業の 効果 等	事業期間	事業化年度	S60年度	用地着手	S62年度	供用年	(当初) — / —	変動	— 倍
		都市計画決定	S59年度	工事着手	S62年度	(暫定/完成)	(実績) — / H16年度		
	事業費	計画時	(名目値) — / 760億円	実績	(名目値) — / 640億円			変動	0.84倍
		(暫定/完成)	(実質値) — / — 億円	(暫定/完成)	(実質値) — / — 億円				
	交通量	計画時	— / —	実績	— / 37,327台/日			変動	— %
		(当該路線)	(暫定/完成)	(暫定/完成)	(暫定/完成)				
	旅行速度向上	7.5km/h → 19.0km/h		交通事故減少	— 件/億台キロ → — 件/億台キロ				
		(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次)H2年度	(供用後年次)H17年度	(供用前現道→供用後現道)	(供用直前年次) —	(供用後年次) —		
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	—	総費用	— 億円	総便益	— 億円	基準年	— 年
				(事業費: — 億円)	(走行時間短縮便益: — 億円)	(走行経費減少便益: — 億円)	(交通事故減少便益: — 億円)		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.8	総費用	1,101億円	総便益	2,034億円	基準年	平成21年	
			(事業費: 1,076 億円)	(走行時間短縮便益: 1,899 億円)	(走行経費減少便益: 86 億円)	(交通事故減少便益: 50 億円)			
事業遅延によるコスト増			費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円			
事業遅延の理由	—								
客観的評価指標に対応する事後評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（交通混雑の緩和に寄与：渋滞損失時間約2割削減） 個性ある地域の形成（観光地へのアクセス向上：那覇空港から首里城への所要時間18分短縮） <p style="text-align: right;">他13項目に該当</p>								
その他評価すべきと判断した項目	<ul style="list-style-type: none"> 交通混雑の緩和（国道507号：上間～古波蔵間1.76→1.20） 観光活性化を支援（那覇市中心部～沖縄自動車道那覇IC間の所要時間短縮：46分→30分） 								
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価、対象外事業である。 <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 								
事業評価監視委員会の意見	<p>事業の効果が発現されており今後の再事後評価及び改善の必要性はない。事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊見城市、南風原町の人口は全国平均(H20/H2比で1.03)を上回る増加率(H20/H2比で1.36、1.22)。 豊見城市、南風原町の自動車保有台数はそれぞれ、2.30、1.80倍の伸び(H20/H2) 那覇市と南風原市、八重瀬町、南城市間の自動車OD量は増加(H17/H12比で1.34)。 那覇東バイパスと現一般国道507号の総交通量は、年々増加(H17/H2比で2.00)。 								
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>現国道507号における混雑度、旅行速度の改善など現国道507号の交通混雑緩和に十分効果を発揮している。さらに、那覇インターチェンジへの時間短縮による観光活性化の支援、市街地の拡大など、地域にとって重要な役割を果たしていることから、さらなる事後評価の必要はない。</p> <p>なお、今後の沖縄県の西海岸と東海岸を連結するハンゴ道路の整備計画を踏まえると、那覇東バイパスの交通量の増加が予想されることから、状況に応じて上間・仲井真交差点等の立体事業の必要性・整備時期等についても検討を行う必要がある。</p>								
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 								
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 								

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。